

川瀬産業

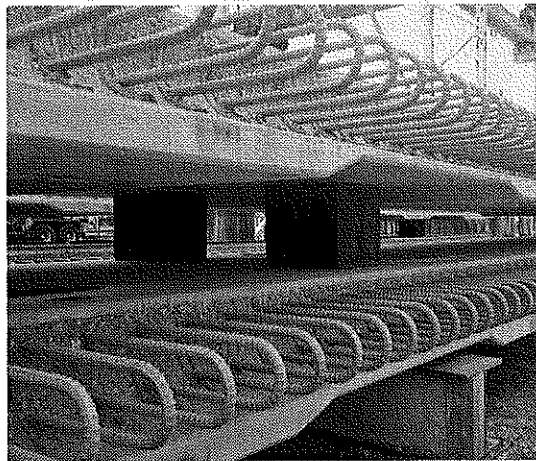
リブラギ 耐久性高くコスト削減

廃プラスチックリサイクル事業を展開する川瀬産業(大阪府貝塚市、川瀬幸久社長)が開発した「リブラギ(再生リサイクル製品)」が、コンクリート製品のストック材として好評を得ている。従来の木製角材を耐久性の高いリブラギ角材に変更することにより、腐敗せず長期間使用できるため、コスト削減のみならず地球温暖化対策や森林資源の保護につながる。環境意識が高まりつつあるコンクリート製品業界

でも採用が広がっている。従来、コンクリート製品工場では、出荷前の製品を屋外ヤードでストックしている。その際、製品同士を積み重ねるため、欠けや傷の防止用に木製角材を挟んでいる。しかし、木材は経年劣化が進むと腐食による強度不足や変色による製品への色移りが生じるため、木質により異なるが一定期間で取り換えが必要になる。「リブラギ」は廃プラ

スチックを使用した100%マテリアルリサイクル

「リブラギ」は開発以来、自動車業界や鉄鋼業界、造船業界、建設業界



ブロック形状のリブラギで床版をストック

ル製品。木材に比べ圧縮強度や耐久性に優れ、腐敗することが無いため長期的なコストメリットが高い。金型により木材とほぼ同様に加工できるため、様々なサイズの角材や三角材、ブロック形状などに成形可能で、境界ブロックやU字溝などの道路用製品からボックスカルバートや擁壁、PC床版などの大型製品まで、あらゆるコンクリート製品に対応が可能だ。

同社は1966年の発足以来、環境保護活動を経営理念とし、薬剤の無害化、廃プラスチックの100%マテリアルリサイクルを推進してきた。「リブラギ」は開発以来、自動車業界や鉄鋼業界、造船業界、建設業界

などを中心に20年以上の使用実績がある。とくに建設業界では、リブラギの多様性から様々な場所や用途で採用されるため、大手セネコン会社より「リブラギ」指定での発注が増えている。コンクリート製品業界においても40社以上に納入実績があり、近年の環境意識の高まりとともに今後、益々普及が広まると期待されている。